

## 服部英太郎・服部文男文庫について

本日、尚綱学院大学に寄贈される服部英太郎・服部文男文庫とは、東北大学経済学部長、福島大学長を務められた服部英太郎東北大学名誉教授(1899-1965)および同名誉教授のご子息で、東北大学学生部長、東北大学経済学部長を務められた服部文男東北大学名誉教授(1923-12007)のノートや草稿、日記や書簡、および両名誉教授が父子二代わたって蒐集された書籍や諸文書を指します。

服部英太郎先生のご専門は、ドイツ・イギリスを中心とした社会政策論・社会運動史で、服部文男先生はドイツ・フランス・ロシアを中心とした社会思想史、経済学史・経済思想史で、両先生はこれらの授業科目を東北大学で講義されていました。

遺文庫には、蔵書のほか、両先生が講義のために作成されたノートや論文草稿、蒐集した資料、書簡や日記、さらに両先生が学生時代に受講した講義のノートなどが含まれます。英太郎先生の講義ノートや論文は、文男先生よって『服部英太郎著作集』全7巻として既に公刊されていますが、収録されているのはその最終版であり、草案や準備稿ではありません。これらは本日寄贈される文庫に含まれます。

文男先生の業績は、『マルクス主義の形成』、『マルクス主義の発展』、『マルクス探索』などに収録されておりますが、これはごく一部でありまして、草案や準備資料などを収めた段ボール箱は30箱前後に達します。これらも、整理が付き次第、順次寄贈されることになっております。

両先生は東京大学の出身ですが、英太郎先生は法学部、文男先生は経済学部です。両先生は共に、学生時代に受講した講義ノートを保管されていました。これらのノートも寄贈文庫の一部です。主なものとして、英太郎先生のものでは、

- (1) 吉野作造の政治史(Political History)、
  - (2) 小野塚喜次の政治学ノート、
  - (3) 高野岩三郎の統計学ノート、
- があります。

文男先生については、東大の学生時代に、また東北大学の特別研究生時代に受講し作成した

- (1) 山田盛太郎の経済政策総論、および農政学ノート、
  - (2) 宇野弘蔵の経済原論、恐慌論講義ノート、
  - (3) 高橋幸八郎の欧州経済史ノート
- があります。まだオリジナルを確認してございませんが、このほか、
- (4) 大塚久雄訪問備忘録があります。

さらに、これらのノートとは別に、今回の寄贈文庫には、服部英太郎先生のご令室、故服部美代様(1901-1990)が津田塾大の学生時代に作成した講義ノートがあります。大正デモクラシーの時代に、女子学生がどのような学生時代を送っていたのかを知る上でたいへん貴重な第一次史料です。

ほかにも興味深いものとして、英太郎先生がドイツ留学中に(1930-1932年)ご夫妻で蒐集した数百枚の絵はがきがあります。保存状態は大変良好で、第2次大戦で

破壊される前のヨーロッパの歴史的建造物や街路を確認することができます。ご夫妻が帯同された戦前の「大日本帝国旅券」(パスポート)も寄贈品に含めておりますが、こうした旅券は現在ほとんど現存してないと思われまので、絵はがき共々、貴重な歴史的史料です。

両先生の文庫の蔵書についてご紹介します。正確な冊数は数え終えておりませんが、寄贈文庫の書籍点数は、総数約 6000 点です。いわゆる洋書が総計3500冊、和書が2500冊前後で、洋書のうち、ロシア語関係が 700 冊強、残りの 2800 冊ほどが、ドイツ語、英語、フランス語、等の書籍です。

和書は、基本的に 1960 年あたりまでのもので、戦前に出版されたものが多数含まれます。ロシア語文献はロシア史、哲学、基礎的辞典類で、多くが戦後のものです。これは、蒐集したのが服部文男先生であったからです。Plechanov, Lenin および Stalin などの党指導者の著作と並んで、1950, 60 年代のソビエト・マルクス主義哲学や経済学文献が特筆すべきです。これらのコレクションは、旧ソ連邦における哲学的思考の発展並びにスターリン主義批判発展の研究のための基盤となりうるものです。

ロシア語以外の洋書では、古いものとして、フランスの空想的社会主義者で後にエンゲルスとも交わった Étienne Cabet(カペー)の Voyage en Icarie, 1848(『イカリア旅行記』)や Ferdinand Lassalle の Arbeiterprogramm(労働者綱領、1863 年)など多数あります。しかし文庫の学術的価値で最も特筆すべきは、総数 1000 点を大きく超える 1911~1933 年、つまりヒトラーが政権を獲得した年次までに刊行された書籍でしょう。服部英太郎先生がドイツに留学していたのはその直前の 1930-1932 年でした。これらの書籍の大半は、英太郎先生の留学中に現地で購入されることになりました。

1933 年までに刊行された書籍コレクションには、August Bebel, Karl Kautsky, Eduard Bernstein, Franz Mehring, Karl Renner, Friedrich Adler, Rudolf Hilferding および Carl Grünberg などのドイツおよびオーストリアの社会民主主義者の著作が含まれます。この時期に属する著作については、無類の、古書店でも滅多に手に入らない非常に多くの書籍があります。このことは、社会民主主義者の文献以外でも、哲学者(例えば、Fichte, Hegel など)や哲学史、並びに政治経済学関連の文献についても当てはまります。これらの著作のなかには、さらに、マルクスの遺稿から Franz Mehring や David Rjazanov が編集刊行した、初版や論文集が多数含まれます。

同様に、1933 年以前のコレクションには、イギリスの歴史家 G. D. H. Cole やアメリカ合衆国の社会学者 Veblen の著作が含まれています。ほかにも、ドイツ語の翻訳書で、重要なロシア人作家のものとして、Lenin, Trotzki, Bogdanov, Radek, Bucharin, Varga 等々の作品があります。

こうしたコレクションは、一橋大学のカール・メンガー文庫や東北大学の櫛田民蔵文庫と蒐集対象が重なりますが、専門的鑑定をお願いしたドイツ人研究者によれば、1920 年代から 30 年代前半にわたるものとしては、両文庫を遙かに凌駕しているとのこと。これらの蔵書によって、今後、ロシア革命と第 1 次世界大戦におけるドイツの敗北を経て、ワイマール共和国が生まれた経緯、ドイツ社会民主党の分裂とドイツ共産党の成立、革命的動乱期に対する各政党の対応、ヴェルサイユ条約への反発、民族問題、大恐慌、ナチスの台頭、等々に新たな光が当てられることを期待します。